

授業科目名	言語発達学	単位数	2
担当教員名	伊藤 一美	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>B.問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概をもつこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 言語発達の過程を理解する。</p> <p>(2) 言語獲得の理論を理解し、説明できる。</p> <p>(3) コミュニケーション言語と学習言語の特徴を説明できる。</p> <p>(4) 読み書きの発達過程を理解する。</p> <p>(5) 発達障害の子どもの言語発達の特性について理解を深める。</p> <p>(6) 発達性ディスレクシア(読み書き障害)の子どもの特性についての理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>言語発達学とは、人の言語発達の過程の解明を目指す心理学の1分野である。本科目では、乳児期から幼児期における初期の言語獲得の理論に加え、その後の読み書きの発達過程、さらには言語発達やコミュニケーションにみられるつまずき、発達障害の言語発達・コミュニケーション・読み書きの特性を検討する。言語は人が持っているコミュニケーションツールのひとつであるが、単に言語コミュニケーションの機能だけではなく、人との関係を築く上で重要な役割を果たしている。そのため、単に言語の発達過程を理解するだけではなく、その発達につまずきを示している事例検討を通して、言語が持つさまざまな機能について、アクティブラーニングの手法も用いて考究する。さらに言語発達やコミュニケーション、読み書きに見られるつまずきは単なる発達の遅れではないことを理解し、その特異な発達過程とアンバランスな認知特性を検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：言語獲得の過程(1) 前言語期のコミュニケーション</p> <p>第2回：言語獲得の過程(2) 養育者の役割</p> <p>第3回：言語獲得の過程(3) 共同注意</p> <p>第4回：言語獲得の過程(4) 音韻の発達</p> <p>第5回：言語獲得の過程(5) 語彙獲得の理論的背景</p> <p>第6回：言語獲得の過程(6) 文法と語用論</p> <p>第7回：言語獲得の過程(7) ナラティブと会話能力</p> <p>第8回：読み書きの発達過程(1) 読みの発達過程</p> <p>第9回：読み書きの発達過程(2) 書くことの発達過程</p> <p>第10回：読み書きの発達過程(3) 読むこと書くことにつまずきの評価</p> <p>第11回：事例検討(1) コミュニケーションにつまずきを示す事例</p> <p>第12回：事例検討(2) 言語獲得につまずきを示す事例</p> <p>第13回：事例検討(3) 読むことにつまずきを示す事例</p> <p>第14回：事例検討(4) 書くことにつまずきを示す事例</p>			

第15回：発達障害の言語コミュニケーションの特徴
定期試験

スクーリングでの学修内容

言語獲得の過程(前言語期のコミュニケーション、養育者の役割、共同注意、音韻の発達、語彙獲得の理論的背景、文法と語用論、ナラティブと会話能力)、読み書きの発達過程(読みの発達過程、書くことの発達過程、読むこと書くことをつまづきの評価、事例検討(コミュニケーションにつまづきを示す事例、言語獲得につまづきを示す事例および読むことにつまづきを示す事例および書くことにつまづきを示す事例についてアクティブラーニングの手法も用いて検討する)について、発達障害の言語コミュニケーションの特徴について、主に講義を行う。(第1回から第10回までのすべての内容と、第11回から第14回の中から選択した内容、第15回の内容を含む。)

教科書

(1) 麻生武・浜田寿美男 編著 (2003) 『人との関係に問題をもつ子どもたち① からだとことばをつなぐもの』 ミネルヴァ書房

参考文献

- (1) 岡本 夏木 (1982) 『子どもとことば』 木岩波書店
- (2) 麻生 武 (1992) 『身ぶりからことばへ—赤ちゃんにみる私たちの起源』 新曜社
- (3) 岩立 志津夫・小椋 たみ子 (2005) 『よくわかる言語発達』 ミネルヴァ書房
- (4) 宮本 信也 (編) (2019) 『学習障害のある子どもを支援する』 日本評論社

学生に対する評価

スクーリング評価 (25%)、レポート評価 (25%)、科目修得試験 (50%) を総合して評価する。